



岡崎市立愛宕小学校 校長通信 令和5年3月22日（水）



だいすきいっぱい チーム愛宕



3月20日（月）、この日、早朝の青空を見上げると、一筋の飛行機雲が空の彼方に向かって真っすぐにのびていました。卒業生34名の明るい未来を祝福しているようでした。校庭にある庄川桜も満開で、見事に咲き誇っていました。



卒業式に先立ち、まず1～3年生の参加する「お別れの会」が中庭にて行われました。普段とは違った少し大人びた制服姿の卒業生を見て、今日でお別れという寂しさが込み上げてきました。3年生の司会進行、指揮は堂々たるものでした。最後卒業生と歌った校歌は忘れません。在校生の歌った「にじいろ」の歌詞、卒業生へ送る言葉にふさわしいものです。いつまでも心に。



第67回卒業証書授与式。厳かな雰囲気の中、胸を張りまっすぐ前を見据える卒業生の姿がとても頼もしく見えました。返事、動き、卒業の歌、よびかけと、どれをとっても立派でした。特に歌に関しては、今までマスク越しの練習で十分にできなかったとはいえ、本番は美しい響きと遠くまで届く声で素晴らしい合唱となりました。34名で歌っているとは思えないほどであり、感動的でした。担任の檀浦先生の指揮、音楽の授業をしていただいた加納先生のピアノ伴奏、そして卒業生の歌がひとつになっていました。式辞の一部です。「…最後に卒業生の皆さんへ贈る言葉です。そっと目を閉じて聴いてください。『なくしたものを数えて 瞳閉ざすよりも あるものを数えた方が 瞳輝き出す』（復唱）、目を開けてください。お分かりですか。先ほど1～3年生がお別れの会で歌った『にじいろ』の歌詞の一部です。失敗したりうまくいかなかったりしたことをいつまでも考えていても先へは進めません。物事を前向きに考え、生きていくことを進めます。その方が楽しいし幸せになれる。人は幸せになるために生まれてきました。たった一つのかげがえのない命を大切に、周りの人への感謝を忘れずに歩み続けてください。人生はいつも『大好きいっぱい』です。卒業生34名の未来が輝かしいものになることを心から願い、式辞といたします」

